

二重否定モダリティ「～ないといったら嘘になる」の意味・機能

大堀裕美（創価大学大学院生）

要 旨

二重否定モダリティの「～ないといったら嘘になる」は、「ない」と断定するよりも話者が婉曲的に感情表出をすることが可能な表現形式である。実際のコミュニケーションにおいては、感情表出が本来話者自身の心的負担を伴う行為であることも多い。話者は直截感情表出するおこがましさや気恥ずかしさを感じたり、聴者に対しては、心配をかけることや気をつかわせるなどの心的負担を少しでも回避したいという双方向のベクトルがある。さまざまな語用論的条件によりやむを得ず感情表出しなければならなくなった場合に選択される言語形式が、配慮表現としての「～ないといったら嘘になる」である。

キーワード:二重否定、婉曲、感情表出、配慮

1. はじめに

現状の日本語学において「～ないといったら嘘になる」のような表現は二重否定とは認定されておらず、その表現が持つ多様な機能も十分に解明されていない。日本語学習者が「～ないと言ったら嘘になる」のような個性的で使用場面が限定される表現の文脈効果を習得することは決して容易でないが、それによって表現の幅が格段に広がることは自明である。本稿は、日本語の二重否定モダリティの側面から「～ないといったら嘘になる」の用法を検討し、文末の二重否定モダリティとして「～ないといったら嘘になる」の意味・機能について述べ、コミュニケーションに果たす役割を考察する。

2. 本稿における二重否定の範疇

本稿は、一つの否定辞と否定意味の語彙が結合した表現を二重否定と認定し、肯定極性に婉曲が付加される「～ないといったら嘘になる」のような表現をモダリティとして慣習化している二重否定表現と考える立場をとる。

3. 先行研究およびその問題点

先行研究における問題点は、先ず「二重否定表現」というのは、どのような表現を指すのか、一口に二重否定と言っても、その定義が一様ではないことである。先行研究の二重否定の形式的定義という観点から見ると、以下のように次の三種に大別される。

- ① 陶（1991）（1994）のように二つの否定辞「ない」を持つもののみ限定するもの
- ② 松岡（1995）小松（2001）のように二つの否定辞「ない」を持つものに加えて、一つの否定辞と否定意味の語彙が結合したものを二重否定と認めるもの
- ③ 林（2005）同（2006）のように命題内の述語語彙にまで否定意味の語彙を拡張して二重否定の要素と認めるもの

このうち③はモダリティとして議論されてきた二重否定を命題の領域まで拡張するもので

あり、文法化も慣習化も経ていないものまで二重否定に含めて範疇化してしまうことは、必然性のない過剰な拡張であると考えられる。日本語教育においてもそのような過剰に拡張された二重否定は文法項目として扱いつらいものとなる。③が広すぎるのに対し、①は「～に違いない」など一つの否定辞と否定意味の語彙が結合したものを二重否定と見なしていない点で狭い。否定意味の語彙「違い」と否定辞「ない」とが結合して一つの肯定極性モダリティを生成しているとする②の立場を取れば、「～に違いない」を二重否定と認めることは可能である。⁽¹⁾ 松岡（同）は「～といっても過言ではない」「～は間違いない」（「～に違いない」に近い性質を持つ）「～ほかならない」などは日本語の論述文で多用される表現であると述べている。日本語学習者がこれらの表現の性質を的確に捉えるためにも、まずはこれらの表現が、他の二重否定モダリティと同じく肯定極性と、強意または婉曲の意味を有することを理解し、個々の表現が持つ固有の意味を適切に理解していくことが有益である。その上で筆者の見解は②の考え方に最も近いが、松岡（同）は外延としての表現群を列挙するのみで内包的定義を示しておらず、小松（同）における「否定的意味の語」にしても、例として接頭辞「不」が示されているのみ（例：不都合なことはない）で定義とはなっていない。筆者は、「一つの否定辞と否定意味の語彙とが結合して肯定極性のモダリティとして慣習化しているもの」を二重否定と認めることができるように陶（1991）の定義を改変して盛り込む必要があると考える。

4. 二重否定モダリティ

前節にしたがって二重否定を以下のように定義する。

- 1) 命題の述語に下接するモダリティの中に、二つの否定辞要素が用いられるもの。
- 2) 二つの否定要素は、二つの否定辞、または一つの否定辞と否定意味の語彙であるもの。
- 3) 命題に対して肯定的な極性を付与し、そこに強意または婉曲の意味、さらに各表現に特徴的な固有の意味を付加するもの。

本稿テーマである「～ないといったら嘘になる」は、2)の「一つの否定辞と否定意味の語彙であるもの」に該当し、1)、3)をも満たすと考える。

二重否定モダリティの例（下線は否定意味の語彙）

肯定極性+強意：～に違いない、～ことは間違いない、～以外にない、～にほかならない、～以外の何物でもない、～ことは疑いない

肯定極性+婉曲：～といっても過言ではない、～といって差し支えない、～かねない、～ことは否めない、～ことは否定できない

これらの否定意味の語彙に類する語彙なら何でも二重否定の要素となれるわけではない。あくまでも一つの否定辞と結合してモダリティとして慣習化しているもののみが二重否定と認定される。筆者は、これらの表現に共通する意味・機能的特徴を踏まえつつ、ここの表現に固有の特徴を正確に記述していく必要があると考え、本稿はその中の一つである「～ないといったら嘘になる」を取り上げ、その固有の意味・特徴について考察する。

5. 「～ないといったら嘘になる」の考察

5.1. 「～ないといったら嘘になる」の固有の意味特徴

「～ないといったら嘘になる」は文末のモダリティとして機能する。例えば、命題を単純に断定した(1)と、文末に「～ないといったら嘘になる」を付加した(2)、「～なくもない」を付加した(3)を比較すると、命題の極性が変更していないことからモダリティ「～ないといったら嘘になる」の極性は「～なくもない」と同様、肯定極性であることがわかる。

- (1) 彼女を好きだ。
- (2) 彼女を好きじゃないといったら嘘になる。
- (3) 彼女を好きじゃなくもない。

否定辞「ない」と否定意味の語彙名詞「嘘」が結合し、全体として二重否定モダリティとなっているのである。そして、(1)の断定に比べて(2)(3)は断定を回避している分、相対的に婉曲性が付与されている。しかし、(3)の婉曲性が単に否定辞「ない」を二度重ねる迂回的断定によって話者の確信の弱さを表すのとは違って、(2)の婉曲性は否定意味の語彙「嘘」の固有の意味によって特徴付けられている。「嘘」とは国語辞典には「事実でないことを本当であるかのようにだましていう言葉。また、事実でないこと。」(北原編(2010))とある。これは命題内容が何らかの理由で聴者にとって(または、一般的に)受け入れがたいものである可能性があることを示す為に、一旦「ない」で否定し、次に話者の本意を表す為に、それを「嘘＝事実ではない」と言及することで、結果として命題内容に対する話者の心情を逆説的に印象づける効果がある。このように聴者に配慮しながらも話者の本意を伝えるという複雑な意味構造が「～といったら嘘になる」の固有の意味と言える。当該表現の言い換えは困難を極めるが、「私が～と100%断定してしまうと差し障りがあるが、～は本当である。」(＝「私の本当の心情・含意に気がついて!」)となるであろう。以上、述べた「～ないといったら嘘になる」の意味・機能について次節では用例を見ながら確認したい。

6. 「～ないといったら嘘になる」の用例分析と命題の型

BCCWJ コーパスや新潮文庫 100 選コーパス、毎日ニュースパックなど複数のコーパスから検索した「～ないといったら嘘になる」の用例 70 例を分析したところ、上接の命題の型として大別すると 3 種あることが分かった。なお、本稿に提示した用例の詳細な出典は巻末に記載した。表 1 はそれぞれの命題の型とそれに対してモダリティ「～ないといったら嘘になる」が果たす役割を整理したものである。

表1 「～ないといったら嘘になる」の命題の型とモダリティ機能
(X=～ないといったら嘘になる)

命題の型	Xに上接する命題の例	Xのモダリティとしての機能	用例数
感情緩和型	全然恐怖がX。	話者の感情を述べる命題に付加して、断定を緩和。	35
先行提示型	A:恐怖心はあるんですか。 B:恐怖心はね、Xだけど、何も考えてないね。	先行話者が発話した命題を受けて、後行話者がXを発話し、真意を主張する。	13
言い訳型	支店長夫人に取り入ろうなんて、別にそういう気持ちはXっていうか…。	話者が命題の補足や釈明、ある種のいい訳などを主張する。	22

6.1. 「～ないといったら嘘になる」の命題の型

「～ないといったら嘘になる」の表れ方は、命題の型により次のような3つのカテゴリーに分類が可能である。

6.1.1. 感情緩和型

このグループは、話者の感情表出に現れる「～ないといったら嘘になる」である。命題に表れる語彙をみると例えば「無理をする」「悔いが残る」「不安がある」「下心がある」「苦しい」「寂しい」など否定的な感情を吐露する語彙を含むものが多く、このグループの検証した35例中31例がこのようなものであった。このことから命題に否定的な語彙を用いて話者の感情を吐露することが、「～ないといったら嘘になる」の主用法ということになる。

(4) 乳がんになって、つらくないといったら嘘になるけど、この病気になったから見えたことがたくさんあります。(20150713 友人のメールより)

(4) のような発話は話者が聴者に語りかける(心の)声のようなものである。同様のケースの用例には目の前に聴者が存在している例、していない例の両方があった。仮に目の前に聴者が存在していない場合でも、それは小説や新聞記事のようなものであり、広い意味で聴者は存在していると考えられる。(5) は新聞記事の一部であり、このような書き言葉的なものにも表れる。

(5) マサキさんに下心がなかった、といえば、嘘になる。家出サイトで数人とやり取りをし、リサと名乗る18歳の女性と会った。地味な格好で、化粧も薄い。年齢より若い印象を受けた。(狙われ)

(4) (5) の例から、話者の感情表出で「～ないといったら嘘になる」が表れるのは、話者にとっての否定的命題を、単純肯定することを避ける為であり、眼前に当事者がいる場合や、また存在しなくても不特定多数の人の目にふれる新聞、書籍に記されていることを話者が意識して使用していることがうかがえる。さらに、否定的な感情を直截表出することは、日本人にとって「恥」「外聞を気にする」こと＝「面子」を守ることにつながるため、「～ないといったら嘘になる」で婉曲に話者の真意を表現することは、話者自身の消極的フェイスを守ることになる。また、少数ではあるが話者の肯定的な感情表出に現れる

「～ないといったら嘘になる」もある。命題に表れる語彙をみても例えば「期待する」「かわいい」「結婚の二字が頭をよぎる」など肯定的な感情を吐露する語彙を含むものであった。しかし、検証できたのはわずか4例と少ない。

(6) ところで、豚にまたがっても「馬乗り」というのだろうか。豚に、馬乗り。やってみたくない、といえは嘘になる。こちらの豚の温厚さと、自分の運動神経の欠如を、秤にかける気持ちになってきた。(アンナ)

(7) は小説の一部であり、このような書き言葉的なものにも表れる。

(7) ルミ子がかわいくないといえは嘘になる。——二十六歳の、蜜 [みつ] の壺のような道具を持った小悪魔だ。が、それ以上に、彼女とは一種の腐れ縁でむすばれていた。(共食い)

(6) (7) の例から、話者の肯定的な感情表出で「～ないといったら嘘になる」が表れるのは、肯定的命題を話者が単純肯定をすることを避ける為であり、その理由は肯定の命題がエキセントリックであったり、不特定多数の人の目にふれる新聞、書籍に記されていることを話者が意識して使用していることは否定的感情表出と同様である。さらに、肯定的な感情を直截表に表出することは、日本人にとって「自慢」「恩着せ」につながるため、「～ないといったら嘘になる」で婉曲に話者の真意を表現することは、それを緩和することになり、結果として話者の消極的フェイスを守ることになる。

6.1.2. 先行提示型

(8) はインタビューに答える対話形式であり、命題は「無理する」である。

(8) アキ:無理してないか?《感情要求》

ユイ:無理してないっていったら嘘になる《感情表出》けど、ちょっとくらい無理しないと変わらないから。(あま)

(8) は先行の発話者が、恐らく後行発話者が肯定するであろうと考えられる否定的感情を表す語彙(=「無理をする」=Yとする)を質問形式で先に発話し、後行発話者は先行発話者が発話した(Y)を命題に付加してから「～ないといったら嘘になる」(=X)を発話するという特徴がある。このような対話における二重否定を発話する論理を解明しようとした先行研究に、中右(1994)がある⁽²⁾。これは、先行の話者によるいわば突っ込み(本音を言いなさいというプッシュ)のようなものである。それに対して応答時に「～ないといったら嘘になる」を付加している後行の話者は、容赦ない本音追求にとうとう本音を漏らしてしまうという構造になっている。後者は本来であれば、その本音を隠しておきたかった、あるいは言いたくはなかったということが見て取れる。したがってこれは「=仕方がないから本音を言う」「渋々言われたことを認める」のような表現に置き換えが可能である。

(9) アナ:新しい生活に不安はないですか?

男性:不安がないという嘘になるが、実生活があるのでなんとか乗り越えて行きたいです。(仮設)

(8) (9) に共通しているのは、「～ないといったら嘘になる」の後に、「でも…」「それでも…」が後続することである。これはその他の6例にも共通しており、先行発話を認めたり、仕方なく曝け出した本心をそのままにするのは何か釈然としないので、反論しているようにも見える。つまりこのような発話の後には後行話者の自己主張が続き、発話が完結

していくのである。また、命題が肯定的な例もある。

(10) (1045 勝の歴代記録塗り替え目前に)

記者:「やはり、歴代記録は気になりますか?」

魁皇:「これだけ騒がれたら、気にならないと言ったら嘘になる。でも自分の相撲を取るだけです。」(キャスター)

(11) (バドミントンの藤川、岩垣ペアがオリンピック準決勝進出を決めて)

アナ:「メダルは意識しましたか?」

岩垣:「メダルを意識しないと言ったら嘘になるけど、次も全力で戦いたい。(NHK)

(10) (11) は、「～ないと言ったら嘘になる」の部分を「=おっしゃるとおり Y (=先行話者の発話した命題)」「認めます」のような表現に置き換えが可能である。(11) (12) に共通しているのは、「～ないと言ったら嘘になる」の後に、話者の決意が後続することである。前出の (8) (9) と異なる点は、命題が肯定的な内容なので、先行話者の発話に反論の余地がないというマーカーになっているという点である。

6.1.3. 言い訳型

このカテゴリーは、6.1.2 で話者が言いにくいことを聞かれて、本音を漏らすのとは違い、発話場面に於いては話者が言いにくいことや、聴者が聞きにくいことは言語化されていない。しかし話者は、「～ないと言ったら嘘になる」を使用し、その言いにくさや不自由さを乗り越えていることが分かる。

(12) (昔つきあっていた治子に社長の娘えりと結婚した理由を語る場面)

八木:治子のことは好きだったけど、結婚となると話は別だろ。えりは料理もうまいし、従順だし。出世のこと考えなかったっていえば嘘になるけど…。(彼、夫)

(12) は、対話の相手である治子が自分からは分かれた理由を聞いてもいないのに、八木がその本音を語る場面である。これは、その場の空気が持つ含意(当然話すだろうというような話題について)を八木が察知し話している。つまり話者にとっては、補足説明や釈明、ある種のいい訳のような命題を持つ発話となることが特徴である。

(13) 支持者:(野党共闘候補の支持をすることを)不安はないっていったら嘘になりますよ。(民進党は)消費税 10%にするっていったでしょ。そこは不信感がありますよ。(クローズ)

(13) は、話者が誰に聞かれたわけでもなく、聞き手がそう思っているだろう疑念に対して(場面の含意で)補足説明的に、その心情を話す例である。(12) (13) に見られるように、このように場面の含意で「～ないと言ったら嘘になる」が発話されるのは、話者が該当の事柄に対して自身の真意を補足、釈明して聴者に理解を求める目的がある。

また、(12) (13) とは異なり、命題内容が肯定的な例もある。そのような用例は、話者は聴者に対して気を使いつつ、自身の主張をしていく。しかし、命題は肯定するのに差し障りがないものがほとんどあり、あらかじめこの場面では「そう答えるだろう」というような予測がついているという意味で含意とした。

(14) (女性にもてると評判の芸人に)

司会:実際のところ、どうなんですか?

芸人：もててないって言ったら嘘になりますね。（もてもて）

(14) は話者が発話を直截断定したら、それは自賛になり聴者に対して差し障りがあるので、「～ないと言ったら嘘」を使用して、聴者に反感を買わないように釈明していることが分かる。

7. 「～ないと言ったら嘘になる」の配慮表現機能

どの用例からもその命題内容に、何らかの意味で話者自身の本心の断定に配慮しなければならない可能性（その命題を完全肯定することで、話者自身が気恥ずかしさを感じる、聴者を傷つける、反感を買うなど）があることを話者が予見し、そのことに配慮した表現形式として「～ないと言ったら嘘になる」が使用されていることがわかった。B&L (1987) では聴者や話者自身が持つ対人関係上の欲求（フェイス）を脅かす恐れのある行為を「フェイス脅かし行為」（Face-threatening act、以下 FTA）としているが、その中で本質的に消極的フェイスも積極的フェイスも脅かすものとして「感情の吐露」（strong expressions of emotion）を挙げている。「～ないと言ったら嘘になる」は、話者の心情を否定的であれ、肯定的であれ本意を吐露している中で出現している。したがって「～ないと言ったら嘘になる」は、その本意を断定することが話者自身にとって、あるいは聴者にとっても FTA であることを予見したときにそれに対する FTA 侵害を回避する目的で使用する配慮表現ということになる。

8. まとめと課題

以上、命題に現れる「～ないと言ったら嘘になる」を二重否定モダリティとしてその命題の型を分類し、モダリティ機能を検証してきた。「～ないと言ったら嘘になる」は以下のような特徴を備えている。

- 1、「嘘」という語彙が「本当である」の否定語と考えれば、そもそも婉曲性を持っていることから、「ない」＋「と言ったら嘘になる」は否定辞を二つ使っている二重否定の婉曲性と同じ機能がある。
- 2、「～ないと言ったら嘘になる」は「心配する」、「恐怖がある」、「不安がある」、「寂しい」のような否定意味を含む語彙と共起しやすく、話者の本意を聴者に遠慮しながらも正確に伝達するモダリティ機能がある。
- 3、二重否定モダリティの「～ないと言ったら嘘になる」は、「ない」と断定するのに比べて冗長であり、話者が婉曲的に感情表出をすることが可能な表現形式である。命題が肯定的であれ、否定的であれ、話者が直截的に深層にある感情表出を行うことそのものが、話者自身の心的負担を伴う行為である場合に、話者は直截感情表出するおこがましきや気恥ずかしさを感じたり、聴者に対しては、心配をかけることや気をつかわせるなどの心的負担を少しでも回避したいという双方向のベクトルが存在する。そこでさまざまな語用論的条件（聴者から本音を言わせようとする感情要求を受けるなど）によりやむを得ず感情表出しなければならなくなった場合に発する言語形式が、配慮表現としての「～ないと言ったら嘘になる」である。

この言語表現形式は、「本音をいうことはどこかはしたくない」、本音を直截断定してしまう

のには、「周りにも気をつかわせ差し障りがある」のような場合に、肝心の本音の部分を伝えながら、相手に遠慮している気持ちも伝えたいという複雑な「日本的心理」のよく表れた表現であるといつてよいだろう。このような用法は上級日本語話者にとって、複雑ではあるが正確に習得することで、より一層日本語の重層で円滑なコミュニケーションが可能になるツールとして見逃すことはできない。今後はこの種の表現の語用論的分析、日本語教育の観点からの分析を蓄積し、その知見を日本語教育にも活用できる方途を見いだしていきたい。

注

(1) 否定意味の語彙「違い」と否定辞「ない」とが結合して一つの肯定極性モダリティを生成していることについては、大堀（2016）2.1と3に詳しく記述した。

(2) 中右（同）によれば、「先に陳述されたこと、含意されている事物を却下する行為＝否認行為」が直接できない場合に、二重否定は出現すると結論している。無論、中右

（同）は英語の二重否定の論理の解明をしているものだが、日本語の二重否定が出現する論理にも援用可能だと思われる。ここで中右の論理を見ていく。

A: You and Jim really must come round to my place some evening.

B: Yes, We'd like to.

A: Of course, you two don't drink, do you?

B: Well, We don't not drink.

Bはわざわざ二重否定構文を用いている。Aに対して、肯定形を用いて「Yes, we do drink.」とは応じることは、中右は「真っ正面から話し手Aの陳述に意義を申し立てていることになる。」としている。これは「We don't "not drink"」のように、引用符をつけてみると分かりやすい。このように考えるとAへの返答として、We don't not drinkとWe do drinkは全く違った印象を与えるメッセージとなってしまうことが明らかになる。そのような論理からAの下線部の発話を下敷きとしてBの発話が生成されたのである。中右（同）は、「否認行為とは、事前にだれかによってはっきりと陳述されたり、そうでなければ場面によって暗に含意されたりしている事柄を、偽（false）ないしは不適切（inappropriate）として却下する行為」と結論している。

参考文献

- (1) 小松光三（2001）「二重否定」山口明穂，秋本守英編『日本語文法大辞典』明治書院
- (2) 陶振孝（1991）「日本語の二重否定について」『日本語学』vol. 10 No. 6 明治書院
- (3) ——（1994）「日本語の二重否定の構造」『日本学研究論集』北京外国語大学日語系
- (4) 中右実（1994）『認知意味論の原理』大修館書店
- (5) 彭飛（2004）『日本語の配慮表現に関する研究』和泉書
- (6) 松岡弘（1995）「論述文における「論型」の指導について」『言語文化』32 p. 87-108
- (7) 山岡政紀（2008）『発話機能論』くろしお出版
- (8) ——（2015）「慣習化されたポライトネスとしての配慮表現の定義」『日本語用論学会第17回大会発表論文集』第10号 日本語用論学会

- (9) 山岡政紀, 牧原功, 小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現日本語語用論入門』
明治書院
- (10) 林楽常 (2005) 「二重否定表現の一考察—形式と意味の相関関係を中心に—」『人間文化研究』第3号 長崎純心大学
- (11) ——— (2006) 『二重否定表現の研究』長崎純心大学大学院人間文化研究科博士論文
- (12) Brown, P. and S. Levinson (1987) “*Politeness*” Some universals in language Usage, Cambridge: Cambridge University Press.
- (13) Grice, H. P. (1975) “*Logic and conversation*”, in P. Cole and J. L. Morgan (eds.) (1975) *Syntax and Semantics Vol.3, Speech Acts*, New York: Academic Press.

用例出典

現代日本語書き言葉均衡コーパス モニター公開データ (2009年度版)

小松左京コーパス 「共食い」

毎日ニュースパック 「狙われる家出少女」 2009年08月03日

ズームイン朝 2011年3月29日放送のインタビュー

荻野アンナ 1995『アンナの工場観光』 共同通信社

「ニュースキャスター」 魁皇のインタビューでの発言 2011年7月9日

NHK朝の連続テレビ小説『あまちゃん』

ドラマ『彼、夫、男友達』 2011年11月7日放送

クローズアップ現代 2016年4月25日

NHKニュース インタビュー 2012年7月31日

もてもてナインティナイン 2011年11月22日

友人のメール 2015年7月13日

(大堀裕美、創価大学大学院博士後期課程在籍、e09d1303@soka-u.jp)